

稲作情報

No6「穂肥&出穂期対応」

J A えちご中越 さんとう営農センター
R8.7.10 発行 TEL: 0258-41-2887



コシヒカリの草丈は指標値並み…

葉色が急激に低下している圃場は1回目穂肥を積極的に施用しましょう!!

1. コシヒカリの生育状況について (7/ 8 調査: 生育調査 14 地点平均値)

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m)	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
寺 泊	5/ 6	76.7	504	11.3	35.0
和 島	5/ 8	68.3	526	11.3	33.9
出雲崎	5/ 5	70.5	383	11.6	32.7
三 島	5/ 5	65.8	414	11.3	34.5
与 板	5/12	63.8	413	11.4	31.9
こしじ	5/11	68.0	400	11.3	35.3
平 均	5/ 8	69.4	451	11.3	33.9
7/10 指標値		66.0	450	11.0	36.0
平均との 指標値比		105% やや長い	100% 並み	4~5 日 早い	-2.1 薄い
対 葉齢 指標値比		99% 並み	103% 並み		-1.7 やや薄い

本年は4~6月にかけて、気温・日照ともに平年を上回った影響で、葉齢は平年比**4~5日進んでおります**。また、コシヒカリの幼穂形成(7/7頃)を確認しております。

本年は生育進度の早まりに合わせて**元肥成分の溶出が進み**、茎数増加の影響を受けたことから、**管内全体で葉色が急激に低下**(特に分施肥体系)の傾向にあります。

ただし、葉齢比での草丈は指標値並みの傾向であることから、1回目穂肥の実施による**倒伏の影響は少ない**と考えられます。

以上の状況から、分施肥体系の圃場を中心に**急激な葉色低下からの回復**を図るため、**1回目穂肥を積極的に施用**しましょう!

2. コシヒカリの1回目穂肥について (7月13~16日頃)

穂肥1回目(出穂18日前頃)の施用遅れや量の不足は、急激な葉色低下を招き**生育の回復遅れ**や**後期栄養不足の原因**となります。**幼穂形成期から出穂期にかけて、葉色値(SPAD)が33以下と**ならないよう「**的確なタイミングと量**」で穂肥を実施して下さい!

また、元肥一発体系の場合も同様に、葉色低下時には**追加穂肥(特裁米範囲内)**を施用して下さい。

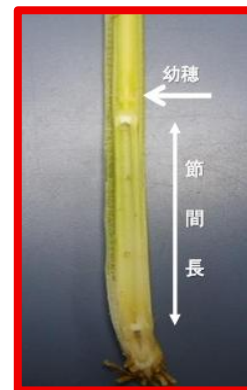
① 1回目穂肥施用時の生育めやす

草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	幼穂形成期の節間長	
70~75	22	11.5	34	幼穂1mm=3.5cm以下	幼穂2mm=5.2cm以下

② 高温年における幼穂形成期の穂肥目安表

草丈×SPAD	穂肥施用量と時期について
2,500未満	◎: 出穂18日前に基準量
2,500~2,800未満	○: 出穂15日前に基準量
2,800以上	×△: 施用しない。ただし、異常高温時は出穂15日前に基準量

例: 草丈 70cm×SPAD35=2,450 → 出穂18日前に基準量 (1.0 Nkg/10a)



③ 特裁米における穂肥肥料と成分等

肥料名	N-P-K	参考価格	肥料の特徴
越後の輝き有機50穂肥	12-2-8	4,189円	全窒素12%のうち有機由来が6.3%のため、肥効は持続的
さんとう穂肥有機	14-1-14	3,280円	全窒素14%のうち有機由来が1.8%のため、肥効は速効的

3. 2回目穂肥・後期栄養確保対策について (7月21日頃)

① 2回目(出穂前10日頃)の穂肥対応:【分施肥体系】

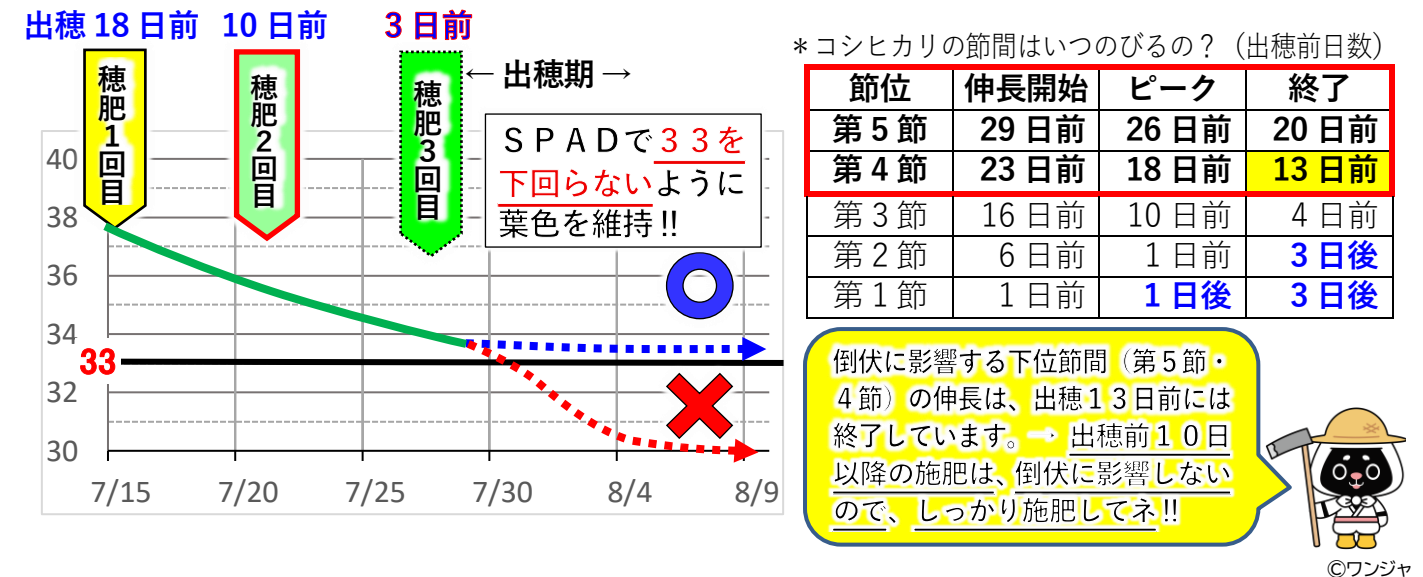
コシヒカリの2回目穂肥時期は、栄養不足による品質低下防止のため、穂肥を**確実に施用**して下さい。(1.5~2 Nkg 程度/10a)

→*1: 出穂前10日以降の施肥は稈長の伸長=倒伏に影響しませんのでしっかりと確実に施肥します。

*2: 1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合、1回目穂肥の7日後を目安に2回目を施用します。

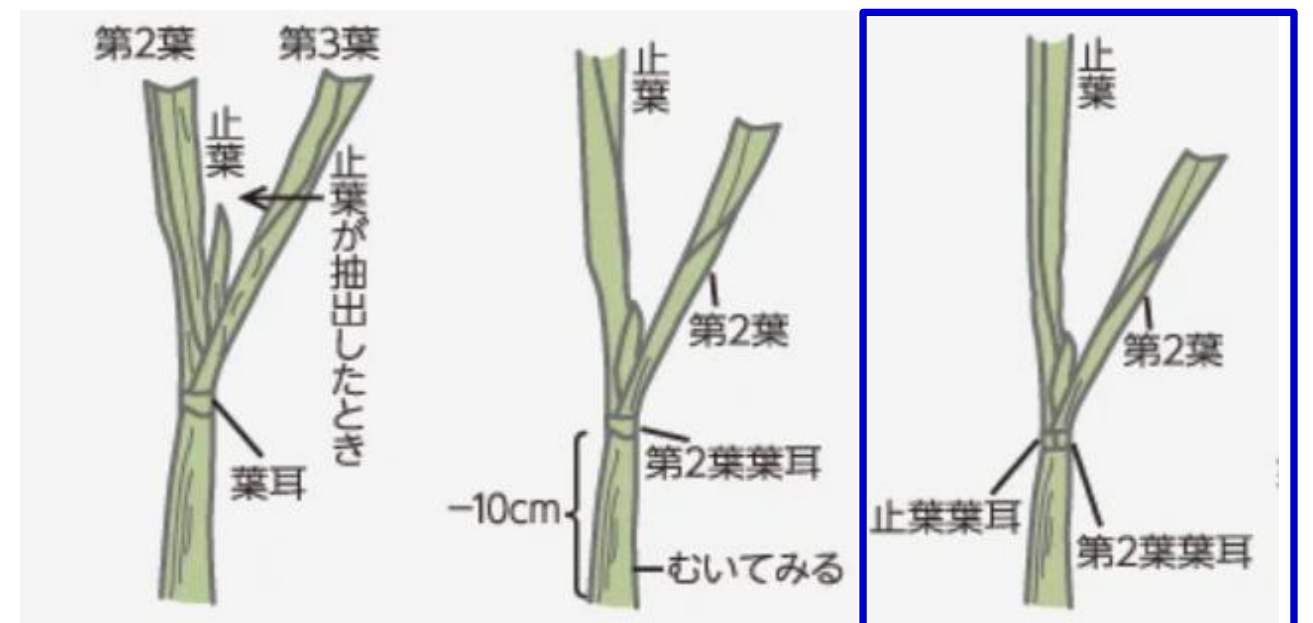
② 出穂前10日以降の穂肥対応:【元肥一発体系・分施肥体系 共通】※特裁米範囲内

出穂期までに**葉色が極端に淡くなる**(コシヒカリの場合: **SPAD 33以下**になる)場合には、「**出穂の3日前まで**」に、生育にあわせて**追加穂肥**(1 Nkg 程度/10a)を施用して下さい。



③ 止葉の出方で「出穂10日前」=2回目穂肥時期を診断しましょう!!

生産現場でコシヒカリの2回目穂肥時期を判断する材料として、下図:「止葉の出方と葉耳間長」を参考に葉の付け根にある突起=「**葉耳**」を観察し、**2回目穂肥**の散布適期(止葉の葉耳とその下の葉の葉耳が並んだころ…**葉耳間長0cm**)を判断しましょう!!



「出穂のおよそ18日前」
水稻の出穂前最後に出る葉が止葉でその下から上位第2葉、第3葉となる…止葉が抽出し始める

「出穂のおよそ12日前」
止葉の抽出が進んだら葉鞘をむいてみる…葉耳間長-10cm

「出穂のおよそ10日前」
止葉の葉耳と第2葉の葉耳が重なったとき…葉耳間長±0cmで2回目穂肥の散布適期!!

④ 出穂 10 日前の葉色で穂肥施肥量を決定しましょう !!

コシヒカリの登熟期間に高温気象が予想される場合「出穂期の葉色」＝SPAD 値が33を下回らないように穂肥施用することが、最も重要な技術対策となります。

以下の手順で出穂 10 日前の葉色を診断し、2 回目穂肥の施肥量を決定します。

A：裏面図③止葉の出方と葉耳間長を参考に、2 回目穂肥時期を診断します。

B：止葉の葉耳と第 2 葉の葉耳が重なったとき（出穂 10 日前）に、SPAD で葉色を測定します。

C：測定された SPAD 値を右表の★出穂 10 日前 SPAD 測定値にあてはめ、N 施肥量と穂肥施肥量を診断します。

*【例】：出穂 10 日前の SPAD 値が 31.0 と測定された場合、必要となる穂肥施肥量は 1.521Nkg/10a となり、越後の輝き有機 50 穂肥を施肥する場合、10a あたり施肥量：12.7kg と診断します。

表：出穂 10 日前の葉色値と穂肥施肥量の換算

出穂期 目標 SPAD 値	★出穂 10 日前 SPAD 測定値	2 回目穂肥 施肥量 (N kg/10a)	越後の輝き有機 50 穂肥 施肥量 (kg/10a)
出穂期の SPAD 目標値を 「33.0」 に設定 すると…	28.0	2.473	20.6
	28.5	2.315	19.3
	29.0	2.156	18.0
	29.5	1.997	16.6
	30.0	1.839	15.3
	30.5	1.680	14.0
	* 31.0	* 1.521	* 12.7
	31.5	1.363	11.4
	32.0	1.204	10.0
	32.5	1.045	8.7
	33.0	0.887	7.4
	33.5 以上	0.728	6.1

★注)県認証特裁米 化学 N 使用基準量：3.5N kg/10a 以下となるよう施肥設計してください。

※トータル化学 N 使用基準量が 3.5Nkg/10a を超過する場合、有機 100%穂肥（みらい有機 831 等）を施用してください。

A：スタークルの剤型別散布方法

剤型	使用量	散布上の留意点
粒剤	3kg/10a	田面が湿った状態（飽水状態）～ 深い部分で 3cm 程の浅水
豆つぶ	250 g /10a	ほ場全体を 3～5cm にしっかり湛水 (漏水田等での使用×)
液剤 10	右記のとおり	動噴等：1000 倍液・60～150 ℓ /10a ：8 倍液・0.8 ℓ /10a ※畦畔等を含めた散布が望ましい

カメムシ類の防除は、使用条件・面的防除の観点などから…
「スタークル液剤 10」がオススメです！

周辺作物への飛散、ドリフトに注意してね！

B：粒剤・豆つぶの散布適期の稲姿について

出穂期
40～50% 出穂

出穂期 5-7 日後

散布最適期
100% 出穂（穂揃い期）

粒剤・豆つぶを使用する際は、地域の水事情も考慮し、計画的に水張りを行いましょう！

C：薬剤散布時と散布後の作業ポイント

- ① スタークルは、降雨により薬剤効果に“ブレ”が生じるため、天候が安定している期間に散布する。
- ② 粒剤・豆つぶは散布後に降雨が予想される場合、水尻をしっかり止めてヒタヒタの浅水状態で散布し、オーバーフローにしない。
- ③ 粒剤・豆つぶは散布後 4～5 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水・かけ流しはしない。
- ④ 薬剤散布後も引き続き、イネ科雑草種子が結実しない間隔での雑草管理を徹底する！

4. 病害虫対策について

① いもち病

6/15・27 に近隣地域でいもち病感染好適条件が発表され、当地域の一部でもいもち病の発生が確認されております。葉いもちから穂いもちへ感染拡大する時期となりますので 上位葉での発生・病斑を確認したら、ただちに薬剤防除（カスミン液剤）を実施してください。

カスミン液剤	1000 倍液・60～150 ℓ /10a（穂揃期まで） ：8 倍液・0.8 ℓ /10a（穂揃期まで）
--------	---

② 紋枯病

高温 + 多湿条件下で紋枯病は発生しやすくなります。前年に多発生したほ場や発生しやすい品種では、梅雨明け以降の気温上昇でさらに病状・被害が進展しやすくなります。発病（発病株率：10%以上）が確認されたら、薬剤防除（バリダシン剤）を実施してください。

バリダシン液剤 5	1000 倍液・60～150 ℓ /10a（収穫 14 日前まで）
バリダシンエア	：8 倍液・0.8 ℓ /10a（収穫 14 日前まで）

③ 斑点米カメムシ対策

病害虫予察において、カメムシ類の増加が確認されております。水田内外の雑草管理（草刈り・除草剤散布）を徹底しましょう。

また、出穂の早い五百万石・ゆきみらい等は防除適期を迎えます。適正な水管理で防除効果を高め、散布適期に防除を実施しましょう！

【葉いもち病斑・急性型と慢性型】



【紋枯病斑】



5. 3 回目穂肥（追加穂肥）について

出穂期 6 日前頃を判断期限とし、3 回目穂肥を実施しましょう！

- ① コシヒカリの葉色が淡いほ場では、出穂期前に 1～2 Nkg/10a を目安に追加の穂肥を施用してください（出穂期の葉色目安：SPAD 値 33）。
 - ② 元肥一発体系のほ場でも、葉色が淡い場合は追加の穂肥を施用してください。
 - ③ 施用効果を高めるために、飽水管理を徹底しましょう。
- ※ 今後、管内全体で著しい葉色低下により 3 回目穂肥（追加穂肥）が必要と判断した場合は、指導機関・JA より「緊急情報」を送達します。

ご案内① 水稻の「生育診断」はJAにお任せください!!

皆さまからのご要望で現地ほ場に出向き、水稻の幼穂長や草丈・茎数・葉色等の生育診断を行い、穂肥施用と栽培管理を個別に指導します。
穂肥の判断に是非ご活用下さい!!

「生育診断チーム」設置・活動期間：7 月上旬～7 月下旬まで
～ 詳細につきましては、お気軽に最寄りの営農センターへお問い合わせください!! ～

ご案内② さんとう地区あぐりセンターの営業について

あぐりセンターの営業は、8 月 8 日（土）～8 月 16 日（日）は休業となりますのでご注意ください。